

拝啓 夏もすぎて、すっかり過ぎしやすい季節となりました。その後もお元気で活躍のことと思います。

さて、先日はご多忙中にもかかわらず、私どものチームをご激励くださり、誠にありがとうございました。

結果はご存じのように、惜しくも準決勝で敗退し、ご期待にそうことはできませんでしたが、準々決勝における延長戦での頑張り、前日にいただいた先生のお手紙によるご激励のたまものと申せます。

「何を恐れることがあるのか。練習で流した汗と涙は、敵に負けないはず。その誇りを胸に戦えば、結果は自ずとついてくる」という下りを私が読み上げたとき、選手たちの表情が、ぱっと明るくなるのがわかりました。彼らは先生の言葉によって、持てる力をふるに発揮することができたのです。

ご芳情に改めて心からの感謝を申し上げます。

敬具